

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
1 新学習指導要領の実施に向け特色ある教育課程の開発に努めるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。ベル着、授業開始・終了のあいさつを生徒指導課と協力しながら全学年に徹底させ、やる気と元気にあふれる環境を整える。	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年88%  1年 88% 2年 90% 3年 84%	肯定的回答の割合は、前期の85%よりも若干高くなり、昨年度と比べると10ポイント以上上昇した。引き続き、生徒が主体的に取り組める授業の推進に力を入れたい。
	② 自学自習の調べ学習、対話的な学びを通して知識を関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。考查問題で「深い学び」が確認できる問いを今まで以上に意識して出題する。	自学自習の調べ学習や対話を通して思考を深める授業を実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：88%	肯定的回答の割合は、前期の87%と同程度であったが、昨年度と比較すると9ポイント上昇した。引き続き、「思考を深める授業」に力を入れ「深い学び」の実現を図りたい。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年79%  1年 77% 2年 82% 3年 78%	肯定的回答の割合は、前期の78%と同程度であり、昨年度より8ポイント上昇したが、A評価には届かなかった。研究授業後の研究協議会や「互見授業」等を利用し、授業改善のポイントとして「生徒の表現力の向上」の観点を浸透させていきたい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握を定期的に行い、授業・補習・課題をセットにした取り組みを行う。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価：A  161人	現3年生は、2年次終了までに143名が1級3種目を取得しており、最終的に161名となった。来年度は、より一層計画的な取り組みを行い、上位級に挑戦する向上心を育て、一人でも多くの合格者が出るよう努めていきたい。
	⑤ 新学習指導要領の趣旨をよく理解し、各教員が学校全体の教育活動を意識した自分なりの教育課程案をもって検討に臨む。	「新指導要領の趣旨をよく理解し自分なりに新教育課程案を考えている」教員の割合が、 A 100%である B 85%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：B 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：92%  全回答数 52 内訳 あてはまる 11 だいたいあてはまる 37 あまりあてはまらない 3 あてはまらない 1	肯定的回答は、前期の83%から9ポイント上昇した。来年度の1年生から新学習指導要領に基づく指導と評価が始まるため、趣旨だけでなく、指導内容や評価方法の具体化を早急に進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	「表現力」や「伝える力」は社会に出てからも必要とされるので、継続して指導してほしい。検定試験の合格者数が増えたのは、コロナ禍にあっても生徒が意欲的に学習した結果である。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業のポイントの一つとして「表現する力・伝える力」の観点を浸透させていきたい。検定試験については、授業・補習・課題のつながりを見直し、より効果的な指導を行っていきたい。			

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案	
2	①	相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	年間を通して相手の目を見たさわやかな気持ちのこもった挨拶ができたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全体92%  1年 90% 2年 93% 3年 95%	前期・後期ともに肯定的回答の割合は92%で上位学年になるほど良好であった。挨拶は、人として生きていくうえでの基本なので、しっかり身につけて社会に送り出す指導ができた。 次年度は、「挨拶の大切さ」を集会・学校行事指導の中で生徒に伝えるとともに、職員の協力も得ながら組織的に徹底できるように指導強化を図りたい。
	②	生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価：C  年間102日	保護者から事前に遅刻連絡がある場合は遅刻扱いとしないこととしているが、今年度は、その連絡が滞りがちのため、結果的に遅刻数が増えた。また、1月以降、コロナ関連の休校日が複数日発生し、授業日が減少したことも「遅刻0の日」が伸び悩んだ要因の一つである。 次年度は、「報・連・相の大切さ」「時間厳守の大切さ」を啓発していき、130日以上を目標に指導の徹底を図りたい。
	③	マナー教育を含めた商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全体96%  1年 97% 2年 96% 3年 94%	今年度は、日本各地から取り寄せた特産品販売や、電子決済の導入など感染予防を考慮した会場運営など、「ウィズコロナ時代」に応じた工夫を凝らして金商デパートを開催することができ、生徒たちの充実感につながった。 次年度はSDGsの取組を充実させたい。
	④	英語を使つての発信力（話す・書く）を主としたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全体64%  1年 62% 2年 70% 3年 60%	学年別の傾向として、1、3年生と2年生との間に、10ポイント近い差がある。その原因として、1年生の場合は、授業にALTが入っていないこと、3年生の場合は、途中からALTが一人となったため、TTの授業数が半減したことが考えられる。ALTに頼らなくとも、英語によるコミュニケーション能力を向上させられる授業の在り方を考えていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		新型コロナウイルスの感染予防策を講じながら販売実習の場としての「金商デパート」を成功裡に開催できたことは大変良かった。これからの時代、外国語学習は大切である。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針		ウィズコロナ時代における「金商デパート」の運営方法として、新企画がいくつも生み出された。良いものを継続し、課題が残ったものについては改善して次年度へつなげていきたい。英語力の向上については、生徒の関心を高める工夫を講じていきたい。			

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒の割合が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：96%	昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響は収まらず、進路ガイダンスや模擬面接など各種の進路行事が中止となった。しかし、インターネットを利用して企業調べを行ったり、同窓生からのビデオメッセージを活用して就職試験へ向けての心構えや面接のアドバイスをいただいたりして、進路実現に結び付けた。 来年度に向けては、今年度、成果が上がった方法を継承するとともに、事務職を中心に求人開拓に努めていくことが重要である。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫し、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力を向上させることができたと答えた生徒の割合が、 A 75%以上である B 70%以上である C 65%以上である D 65%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：2・3年90%  2年 85% 3年 95%	今年度は、調査書の書式変更や「活動報告書」の提示などが本格的に始まった。3年生には情報提供のほか、3年間の活動を振り返ったり、進学後の見通しを持たせたりするなど、内省する場面の設定を心掛けた。2年生には、2学期から難関大学の情報提供を個別に行い、進学意識を高めることができた。 来年度も、早期の情報提供と工夫に努めたい。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：1年80%	コロナ禍で行事の中止も止むを得なくなる中、進路説明会や分野別ガイダンスを実施することができ、生徒がコース選択を含め自分の進路を考える機会を確保することができた。 しかし、まだ2割の生徒が具体的な進路を設定できていない。また、進路志望の決定と進路実現は別ものなので、今後も学習面の充実と資格取得の推進を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		新型コロナの感染状況によって生じた急な変更によく対処して、良好な結果を得られた。対面方式にもオンライン方式にもそれぞれの長所があるので、両方を大切にしてほしい。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		今年度の試みを通して知ることができたオンライン方式の長所を活かしながら、より効果的な指導の在り方を考え、生徒の進路意識を高めていきたい。		

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価：A 9部	春季や総体・新人大会において、男女バレーボールが優勝、少林寺拳法が準優勝、卓球、女子バスケットボール、ハンドボール、バドミントン、テニス、ソフトテニスベスト4以上の成績を取ることができた。準々決勝敗退の部活動もあるので来年度に期待する。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、のべ4競技以上を目指す。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価：B 4競技	高文連商業部競技大会の総文と新人大会において、珠算、電卓、ワープロの計3競技で団体優勝することができた。また、県高文連大会では、競技かるたも団体優勝することができた。準優勝の部活動もあるので来年度に期待する。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年80%  1年 79% 2年 81% 3年 80%	今年度は生徒会活動がおおむね予定通り実施でき、肯定的回答が昨年度を5ポイント上回る結果になった。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域の行事が減少したため、ボランティア活動の機会自体が失われた。来年度は、生徒自らが考える機会を増やし、部活動や委員会を主体とした活動がより活性化するよう支援したい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年98%	清掃の習慣については、担任や清掃監督の指導、学務員や事務部の協力で生徒の間にしっかりとした定着がみられる。一方でトイレや特別教室、部室や更衣室の清掃に不徹底な面がみられるとの指摘もある。現在の教職員数では清掃指導の徹底が難しい部分もあり、今後の課題である。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：A 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：100%  全回答数52中 あてはまる 29 だいたいあてはまる 23	いじめの未然防止の取組は、生徒が安心して学校生活を送るための基盤である。いじめの未然防止へ向けての取組は、学校として当然であり、今後も100%を維持したい。
学校関係者評価委員会の評価		部活動や特別活動には様々な制限が課されたが、生徒にとっては心のリフレッシュにつながるものであり、充実を図ってほしい。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針		リスクの回避に十分に留意しながら、生徒の活躍の場を確保するよう努めたい。		

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
5 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選や遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の人数が、 A 0人である B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価：C 教職員対象の勤務時間調査結果 一か月の残業時間が80時間超の教員数 4～12月：11人 平均：1.2人	残業時間が80時間を超えた主な要因は、上半期はコロナ対応業務、下半期は部活動指導である。 コロナ対応については、コロナが収束するにつれて減少すると考えられるが、部活動指導については、効果的でめりはりのある指導を推進していくことで、超過時間の縮減を心がけたい。
学校関係者評価委員会の評価		残業時間の削減は望ましいことであるが、様々な業務があり難しいのではないかと。一部の教員に過重な負担がかからないようにしてほしい。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		タイムマネジメント力は教員にとって大切な力であり、時間を意識した執務を心掛けるよう働きかけていきたい。		